



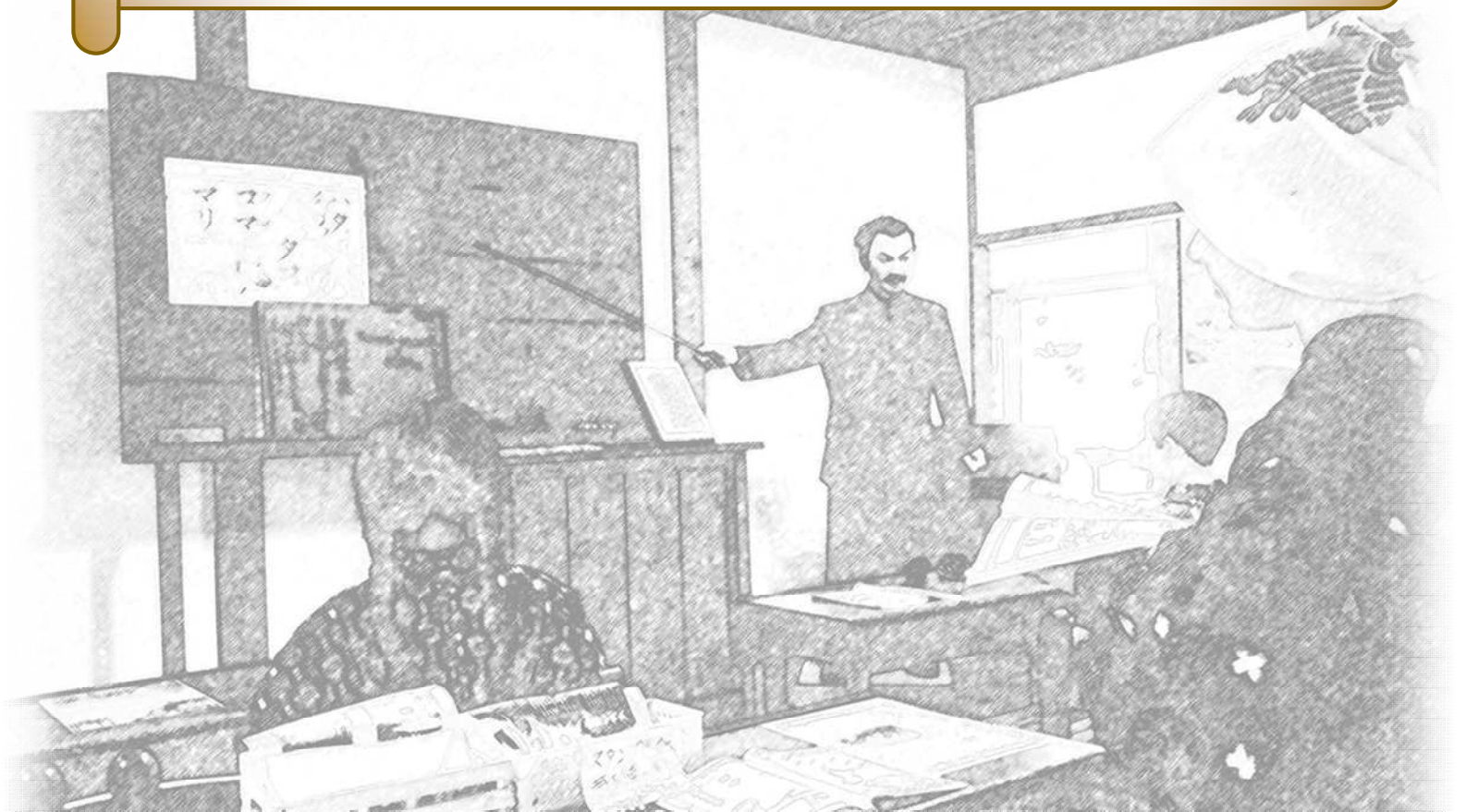
# 近代教育に情熱をかけたしずおか人の結晶

## ストーリーの概要

武士の世が終わった明治時代。新時代の担い手となる若者の教育に力がそそがれた。明治5年に学制が発布されると、各地域で校舎の新築競争がスタートした。

県内でも伝統的な日本建築を踏襲しつつ、外見は洋風の校舎が造られた。時を超えてまちの景色と調和したたたずまいは、学校としての役割を終えた現在も、こどもたちが初めて体感した日本の近代化の象徴として、地域の人々に愛され、語り継がれている。

近代初期に造られた学校は、いずれもが強烈な個性を持ち、「しずおか人」の教育にかける意気込みを訪れた人に、今も伝える。



# トピック

## 近代教育の幕明け



残存する最古の洋風校舎  
「旧見付学校」  
(磐田市)

- 大きな変革期を迎えた明治時代の日本。明治5年(1872)、学制が発布され、だれもが自由に学ぶことができる新しい時代にふさわしい教育がスタートした。
- 各地で寺院等を利用し学校が開かれる中、新校舎建設の動きも起きた。
- 多くは和風の建物であったが、洋風校舎を建てた地域もあった。洋風校舎は、多くのこどもにとって、初めて体感する西洋であり、文明開化の象徴であった。

## 今に残る明治の学校



「旧岩科学学校」(松崎町)の  
バルコニー  
扁額は三条実美の揮毫

- 静岡県内には、明治時代の洋風校舎が3棟残る。一つは、磐田市の旧見付学校である。磐田市域には、洋風校舎が3か所に建てられたが、唯一現存する校舎である。
- 松崎町の旧岩科学学校、旧大沢学舎も現存する明治時代の洋風校舎である。
- このほか、明治時代に新築された校舎のうち、現存するのは森町の旧城下学校と菊川市の旧内田学校のみである。

## 学校建設への苦闘



学校建設には、教育の重要性を理解した地元指導者の役割も大きい

左: 大久保忠尚  
見付学校設立に尽力

右: 佐藤源吉  
岩科学学校設立に尽力

- 学校建設で特に大きな課題となったのは、建築資金である。資産家の寄付の他、住民からの寄付金も募られ、多くの住民が応じたと伝えられる。
- しかし、寄付金を出せる余裕がある家は少なく、草鞋を編んで売ったお金を寄付する人や、資材の提供、材木運びを行う等、新時代の担い手であるこどもたちの教育に熱意をかけた地域の人々のエピソードが残されている。

## いきづく伝統



旧見付学校の近くでは、伝統的な「粟餅」も楽しめる

- 洋風校舎は、各所に和の要素を持ち、地域的な素材等を用いる。
- 岩科学学校は、松崎の町屋でみられる「なまこ壁」を外壁の一部に採用する。磐田市内では、「伊豆石」が建築に利用されてきたが、見付学校でも使用されている。
- 地域に根付いた技術、素材を受け継いだ建築であったことも、洋風校舎が地元の人々に親しまれている背景であろう。



# 洋風校舎を取り巻く構成資産

- 県西部の3市町(磐田市、菊川市、森町)と伊豆の松崎町に所在する 19 件の文化財が構成資産

## 構成資産 1 ～旧見付学校エリア (磐田市) ～



遠州三大学校 左から「坊中学校」・「西之島学校」・「見付学校」

- 現在の磐田市内には、かつて、塔屋を持つ洋風校舎が3棟あり、「遠州三大学校」と呼ばれた。見付学校、坊中学校、西之島学校である
- 見付学校のみ現存し、2校は跡地に往事を忍ぶ石碑が残される



旧見付学校

時:9:00～16:30  
休:月曜日、年末年始ほか  
料:無料

きゅうみつけがっこう

### ①旧見付学校

磐田市見付

《国指定史跡》

- 地域の人々の努力によって明治8年(1875)に建築
- 静岡県を代表する明治時代の校舎として、旧岩科学校(松崎町)と双璧をなす



当時使用された教材等を展示



いわたぶんこ

### ②磐田文庫

磐田市見付

《国指定史跡》

- 元治元年(1864)に淡海国玉神社神官・大久保忠尚によって建てられた私設図書館
- 見付学校開校に伴い、蔵書が寄付された



おうみくにたまじんじゃ

《県・市指定有形文化財》

### ③淡海国玉神社 磐田市見付

- 見付学校建設時に敷地を提供した遠江国総社。祇園祭が行われる
- 境内は学校の遊歩場として使用されてきた



おおくぼけしゅうたく

### ④大久保家住宅 磐田市見付

- 見付学校開校にあたり、敷地を提供し、学校の建設・経営に尽力した神官・大久保家の住宅

通常非公開



やなひめじんじゃ

### ⑤矢奈比売神社 磐田市見付

- 淡海国玉神社とともに「見付のお天神さま」として地区の人々の心のよりどころとなっている神社



みつくてんじんはだかまつり

《国重要無形民俗文化財》

### ⑥見付天神裸祭 磐田市見付

- 矢奈比売神社・淡海国玉神社を舞台に行われる祭典
- 見付地区の伝統と地域の結束を伝える

毎年、旧暦8月10日にあわせて行われる(9月頃)



みつけれしゅく

### ⑦見付宿のまちなみ 磐田市見付

- 見付学校の南は、江戸時代、東海道の宿場町として栄えた
- 現在、売られている「栗餅」や「きんつば」は、100年を越える伝統を持つ和のスイーツ



ぼうちゅうがっこうき せきひ いおうじ

### ⑧「坊中学校記」石碑(医王寺) 磐田市鎌田

- 医王寺薬師堂敷地内に建つ、学校設立に尽力した住職松村淳高の顕彰碑



にしのしまがっこう せきひ わかみやちまんぐう

### ⑨「西之島学校」石碑(若宮八幡宮) 磐田市森下

- 西之島学校跡地に建つ
- 隣接して地元民から「郷社」の愛称で知られる神社が建つ



## 構成資産 2～旧岩科学校エリア（松崎町）～

- 伊豆西海岸の松崎町には、明治時代に建てられた2棟の洋風校舎が残り、建築に携わった名工の足跡を辿ることもできる



きゅういわしながっこう  
⑩旧岩科学校 松崎町岩科北側

≪国重要文化財≫

- 明治13年(1880)建築
- なまこ壁と洋風のバルコニーを持つ和洋折衷建築
- 2階「鶴の間」の欄間には入江長八が描いた千羽鶴がある

時:9:00～17:00 休:木曜日(祝日の場合は直前の平日)ほか  
料:大人 300円(中学生以下無料)



かいかてい  
⑪開化亭 松崎町岩科北側



- 明治8年(1875)建築の旧岩科村役場
- 旧岩科学校隣地に移設され、土産物屋・喫茶店として使われる

時:9:00～17:00  
休:無休 料:無料

松崎町特産の桜葉の塩漬けを使った「桜葉餅」も楽しめる



かべ  
⑫なまこ壁のまちなみ 松崎町松崎他

- 旧岩科学校にも用いられている目地の漆喰を盛り上げて造る「なまこ壁」の建物が松崎地区や岩科地区に建ち並び
- 松崎地区には明治商家中瀬邸や伊豆文邸等の公開施設がある



いず ちょうはちびじゅうつかん  
⑬伊豆の長八美術館 松崎町松崎

- 岩科学校の建設にも貢献し、江戸時代から明治時代にかけて活躍した左官職人・入江長八の作品を展示している
- 建物は、昭和60年(1985)第10回吉田五十八賞を受賞

時:9:00～17:00 休:木曜日(メンテナンス休あり) 料:大人 500円(中学生以下無料)



ちょうはちきねんかん じょうかんじ  
⑭長八記念館(浄感寺) 松崎町松崎

- 入江長八の菩提寺
- 長八の傑作「八方睨みの竜」がある

時:10:00～15:00 休:水曜日ほか 料:大人 500円(中学生以下無料)



きゅうおおさわがくしゃ  
⑮旧大沢学舎 松崎町大澤

≪町指定有形文化財≫

- 明治6年(1873)、個人の寄付によって造られた洋風建築の公立小学校は、道の駅敷地内に移築され、公開されている

時:9:00～17:00 料:無料

## しろした 構成資産 3 ～城下エリア（森町）～

- 江戸時代に秋葉山への参詣者で賑わった情緒ある森町城下には、明治時代に建てられた和風の学校が残る



きゅうしろしたがっこう <<町指定有形文化財>>  
⑩旧城下学校 森町城下

- 明治 17 年(1884)築の和風建築の学校
- 情緒あるまちなみに溶け込み、現在も集会所として使用される

内部は通常非公開



しろした  
⑪城下のまちなみ 森町城下

<<町指定有形文化財>>

- 旧城下学校に隣接する古い情緒が残るまちなみ
- 秋葉山常夜燈(町指定有形文化財)や火の見やぐらが残る

## うちだ 構成資産 4 ～内田エリア（菊川市）～

- かつては「塩の道」が通っていた菊川市内田地区には、明治 11 年(1878)に内田小学校校舎と同時に建てられた職員室が残る



きゅううちだがっこうしょくいんしつ  
⑩旧内田学校職員室 菊川市下内田

- 明治 11 年(1878)築、東遠に唯一残る近代初期の学校
- 内田地区センター敷地内にある

内田郷土資料館として平日のみ内部見学受付  
問合せ先:内田地区センター(8:30~16:30) 0537-36-5499



うちだちく でんばたふうけい  
⑩内田地区の田畑風景 菊川市下内田

- 上小笠川の両岸に水田が広がり、東西の丘陵の斜面から麓にかけて集落や畑、ため池等が点在する

- 森町や菊川市を通る「秋葉街道」・「塩の道」は、しずおか遺産「秋葉信仰と街道」にて紹介

【しずおか遺産「秋葉信仰と街道」の概要】

- 江戸時代、全国から火伏の御利益を求め秋葉神社を目指した人々が通った「秋葉街道」沿いの文化財 48 件を紹介するストーリー



秋葉山本宮秋葉神社上社



# 初めての学校建設～職人の技～

- 初めての学校建設。誰も学校建築のデザインや建て方を知らない中で建てられた明治時代の洋風校舎は、それまで洋風建物を建てたこともない職人の技術と工夫の結晶でもある

## 職人の技 1 ～旧見付学校～

### 旧見付学校の上げ下げ式ガラス窓

- 伊藤平右衛門が、わざわざ建設中の東京・横浜の洋館を見に行き、工夫をしたものと言われる



窓枠内部に吊られる分銅錘

(桜井淳一氏作画)



伊藤平右衛門

- 見付学校は、隣接する淡海国玉神社の門を造るために来ていた名古屋の大工棟梁・伊藤平右衛門に建築が任された
- 伊藤は、宮大工の経験に新しい技術を巧みに取り入れ工夫し、校舎を建築した

## 職人の技 2 ～旧岩科学校～

- 岩科学校の建築を担ったのは、地元の大工棟梁・高木久五郎、菊地丑太郎である
- 岩科学校の建築には、地元の左官職人・入江長八(伊豆の長八)も関わった
- 2階の「鶴の間」の千羽鶴は長八の傑作である



旧岩科学校「鶴の間」

- 作法や裁縫の事業に利用された
- 床の間の紅い壁は昇る太陽、脇床の緑は松を表現



「千羽鶴」

- 「鶴の間」欄間の「千羽鶴」は漆喰で描かれる
- 入江長八は、江戸時代から明治時代にかけて活躍した鍍絵(こてえ)の名工

# 初めての学校建設～紡がれた歴史の上に～

- 洋風校舎の建築には、地元で使い続けてきた材料や技術も活かされた

## 歴史の上に1～旧見付学校の基礎と基壇～

- 磐田市南部の掛塚は、近世から近代にかけ湊町として栄えた
- 掛塚には、伊豆から石材(伊豆石)も船で運ばれ、建築材として使われた
- 建築材として馴染みのあった「伊豆石」は、見付学校にも使われた



### 伊豆石

- 旧見付学校周辺には、「伊豆石」を使った蔵も残る

### 横須賀城の元石垣

- 丁寧に積まれた基壇の石材は、破却された横須賀城(掛川市)から、川を伝い、船で運ばれたもの

## 歴史の上に2～旧岩科学校の「なまこ壁」～

- 旧岩科学校の教室棟外壁の一部は、松崎町内の町屋や蔵に使われてきた伝統の「なまこ壁」である



- 教室棟外壁の一部は、壁面に平瓦を並べ、目地に漆喰を盛り付けて塗る「なまこ壁」である
- 基礎部分には、「伊豆石」が使われる

## 2つの校舎の共通点

- 80 km以上離れた、旧見付学校と旧岩科学校は、意外なところで共通する。それは、「伊豆石」の使用である
- 「伊豆石」と呼ばれる凝灰岩は、伊豆半島南部や中央部、北西部が主要産地



### 室岩洞(松崎町)

- 石丁場跡が見学できる

- 当時の学校を訪れ、周辺のまちなみを訪ね、ニッポンの未来を夢見た150年前のこどもたちの気分になって、まちあるきを楽しみませんか。



# 「近代教育に情熱をかけたしずおか人の結晶」のストーリー

## ○近代教育の幕明け

日本は明治維新によって大きな変革の時期を迎えた。そのひとつが近代教育制度の開始である。日本が世界に向けて新たな一歩を踏み出すため、国家も積極的に取り組み、明治5年（1872）、学制が發布され、国民のだれもが自由に学ぶことができる、新しい時代にふさわしい教育がスタートした。

政府の意向を受け、日本各地で寺院等を仮の校舎として開校すると同時に、新校舎建設の動きが起こる。このような動きの中、新たに建てられた校舎の多くは、伝統的な建築を応用した和風の建物であったが、いち早く洋風の校舎を造った地域もあった。

静岡県西部や伊豆は、当時の洋風校舎が残る地域である。地方では役所や銀行や警察署など、洋風建築が推奨されていた施設ができるのはまだまだ先の事であり、洋風校舎は多くの庶民にとって初めて見る「洋風建築」であり、「文明開化」の象徴であった。

静岡県西部（現磐田市域）では、塔屋を持つハイカラな洋風校舎が3か所に建てられた。「遠州三大学校」と呼ばれた見付学校（磐田市見付）・坊中学校（磐田市鎌田）・西之島学校（磐田市森下）である。このうち、現在残っているのは、見付学校（旧見付学校）のみであるが、坊中学校と西之島学校も跡地に石碑が残され、古写真・古絵図により往事をしのぶことができる。

伊豆（現松崎町）では、岩科学校や大沢学舎が残されている（旧岩科学校、旧大沢学舎）。

このほか現存する明治時代に新築された校舎は、森町の旧城下学校と菊川市の旧内田学校のみである。

## ○学校建設への苦闘

各地域は学制の發布を受け、学校を造ることになったが、初めてのことであり、幾つかの課題に直面した。まずは、教育の重要性をきちんと理解し、皆に呼びかけ、校舎建築の機運を高めてくれる指導者が必要である。

地域で異なるが、ときの県令（県知事）や町村長、地元の有力者がこれを担った。

見付学校では淡海国玉神社神官大久保忠尚・忠利父子ら町の有力者、岩科学校では、戸長・佐藤源吉や地元の有力者依田佐二平らがリーダーとなった。

次は、建築資金である。国からの補助金のごくわずか。山林などの共有財産の売却や資産家からの大口の寄付も頼りであるが、住民からの寄付金も募られた。

どの地域でも、一般市民も子どもたちへの教育の必要を理解し、住民の大半が寄付に応じたと伝えられる。見付学校では大久保家が敷地を提供し、磐田文庫の蔵書を寄付している。

とはいえ、寄付金を出せる余裕がある家は少なく、現在まで、当時の校舎が残された4つの地域には、子供達に新たな学校で教育を受けさせるために、草鞋を編んで売ったお金を寄付する「縄ない資金」や、お金だけでなく資材の提供や、材木運びなどを人々が総出で行ったことなど、労力を惜しまなかった地域の人々のエピソードが残されている。

資金の次の課題は、校舎の建築である。校舎を洋風にするか和風にするのかは、地域の人たちの考え方次第であるが、誰も学校建築のデザインも建て方も知らないため、先進地を訪れての事例調査や、先進地の事例を基に建築家を呼ぶ等の工夫が各地で行われている。

## ○伝統と西洋との融合

見付学校では、隣接する淡海国玉神社の門を造るために来ていた名古屋の大工棟梁伊藤平右衛門に校舎建築が任された。

当時、和風建築しか手掛けたことのなかった棟梁伊藤平右衛門であるが、宮大工の経験に新しい技術を巧みに取り入れ校舎を建築しており、玄関の飾り柱や、上げ下げ式のガラス窓に建築の工夫の一端がうかがえる。また、5階からの眺望は格別で、天気が良ければ遠州灘が遠望できる。

岩科学校の建築を担ったのは、地元の大工棟梁高木久五郎、菊地丑太朗である。さらに、2階の「鶴の間」の欄間に漆喰で描かれている、千羽鶴は、地元の名工入江長八の傑作である。

名工長八の作品は、菩提寺である浄感寺には天井絵として残されており、長八の作品をおさめた美術館（伊豆の長八美術館）は、建物そのものも建築部門の賞に輝いたアートな建築である。

金銭面や技術面での苦労を重ねて、ようやく新築にこぎつけた校舎は、当時の人々の学校建設にかけける情熱と底力を今に伝えるものであり、見付学校と岩科学校はその代表格である。

共に、外観やデザインは洋風であるが、様々なところに和の要素を持つとともに、地域的な素材等が用いられている。

磐田市南部の掛塚は、近世から近代にかけ湊町として栄えた。船で運ばれたものの一つに、伊豆石と呼ばれる石材があり、現在も市内には伊豆石を用いた建物が残る。

見付学校でも、基礎石に伊豆石が用いられている。また、基壇の石垣に使われる円礫は、破却された城から船で運ばれてきたものである。

また、岩科学校の教室棟外壁の一部は、松崎町内の町屋でみられる「なまこ壁」である。地域に根付いた建築技術、建築素材を受け継いだ建築であったことも、この二つの校舎が、時を経て新たな校舎が建てられても、建物自体が地域の宝として人々に愛され続けている理由のひとつであろう。

## 〇見果てぬ夢

静岡県では、家庭や地域社会総がかりでの教育の実現に取り組んでいるが、近代教育がスタートした時、地元の人々が夢に描いた将来像に立ち返ってみることも重要であろう。

現在残る明治期の校舎は、学校教育や地域の生活に関わる資料館、あるいは地区の人々が集う施設として今も活用されており、その多くが実際に中に入ることができる。

旧見付学校や旧岩科学校では、当時の教室の様子が再現されており、少し固い木の椅子の座り心地からは、明治時代の学校生活に思いを馳せることができよう。旧見付学校では、子供を対象に当時の教室での、国語、音楽などの体験学習の他、地域の歴史講座等を開催している。

旧大沢学舎や旧内田学校も内部が公開されている。旧内田学校の隣には現在の内田小学校があり、子供たちの元気な声が響く。

学び舎の周辺には、子どもたちが通った当時の面影を残すまちなみも残る。旧見付学校の南側には、旧東海道見付宿の面影が残るまちなみが続き、現在、売られている「栗餅」や「きんつば」は、100年を越える伝統を持つ和のスイーツで、当時の子どもたちも食したであろう。

矢奈比売神社やなひめじんじやで行われる「見付天神裸祭」は、地域のまとまりの強さを今に伝えるものであるとともに、伝統に誇りを持つ見付地区の気概がうかがえる。

旧城下学校しろしたのある森町城下しろしたは細い道路に沿って、上から見るとノコギリの刃のように少しずつずれながら建物が建ち、秋葉灯籠や火の見やぐらなどがある情緒豊かなまちなみであり、旧内田学校の周辺は、水田と茶畑が広がるのどかな風景を見ることができる。

松崎町は、古くから港町として栄えたこともあり、旧岩科学校の外壁を特徴づける「なまこ壁」が町の至る所で見ることができ、松崎地区・岩科地区は特になまこ壁の民家が建ち並び、地元漁港で水揚げされた新鮮な海の幸も楽しめる。また、松崎町は桜葉の塩漬けの一大生産地であり、旧岩科学校の周辺でも桜葉の栽培が行われ、旧岩科学校の隣に建つ開化亭は、旧岩科村役場の建物であり、名産の桜葉餅を食せる。

さあ、現地で、ニッポンの未来を夢見た150年前の子どもたちの気分になり、当時の学校を訪れ、周辺のまちなみを歩き、当時の子どもたちが感じた、その地区の空気に触れ、見て、聞いて、学び、明治から現代への旅を楽しんでみませんか。

しずおか遺産

「近代教育に情熱をかけたしずおか人の結晶」

代表連絡先

担 当 磐田市教育委員会文化財課

電 話 0538-32-9699

E-mail bunkazai@city.iwata.lg.jp

住 所 〒438-0086

静岡県磐田市見付 3678-1